

小禄小学校で水痘（みずぼうそう）の発生がありました。水痘は、学校感染症第2種で「すべての発疹がかさぶたになるまで」出席停止となります。

身体に発疹が出て水痘が疑われた場合は早めに医療機関を受診して下さい。また水痘と診断されたら学校に連絡をお願いします。

水痘（みずぼうそう）についてのお知らせ

水痘は、水痘・带状疱疹ウイルスに初めて感染したときに起こる病気です。冬から夏の初めに子どもを中心に流行します。水痘の感染力は非常に強く、潜伏期間は主に14～16日（10日未満や21日程度になる場合もある）です。赤い小さな発疹が体にでき、水疱になり膿をもち、最後はかさぶたに変化します。脳炎などの重い合併症を起こしたり、免疫の弱い子どもでは命に関わる場合もありますので注意が必要です。

水痘はどうやってうつるの？

咳や鼻水などのしぶきによる空気感染・飛沫感染があります。その他には、水疱の中にあるウイルスで接触感染もします。

水痘が治った後も…

水痘が治った後も、このウイルスは体内にすみつきます。免疫力が落ちたときには、带状疱疹の原因にもなります。



水痘・带状疱疹ウイルスは、知覚神経節に潜んでいることが多いです。知覚神経節は、体の痛みなどを感じる神経のことで、皮膚の場所ごとに働く神経が決まっています。带状疱疹があらわれる場所は、この知覚神経節のどこに水痘・带状疱疹ウイルスが潜むかによって違ってきます。

水痘の予防について

水痘の予防にはワクチン接種が有効です。水痘にかからなくなる、仮にかかっても軽くて済むなど効果が期待できます。さらに水疱のあとも残りにくくなります。

ワクチンの接種は1歳から受けることができ、腕に1回接種し、効果を確実にするために、3か月以上たったら2回目を受けることが推奨されます。1歳未満のお子さんの場合は、かかりつけ医に相談してください。水痘ワクチンは2014年10月から1～2歳児を対象に定期接種になりました。2014年度末までは未接種の3歳、4歳も1回のみ定期接種の対象になります。

また、一緒に遊んだ子どもがウイルスに感染した場合でも、ウイルスが体に入ってから3日以内にワクチンを接種すれば、症状が出ることを防げるか、かかっても軽くすることができます。

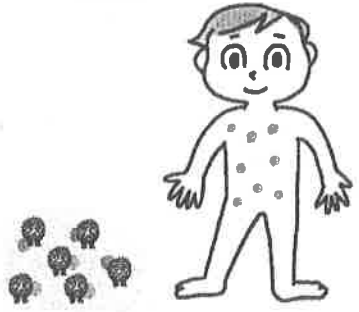


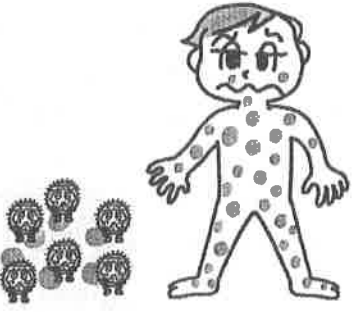
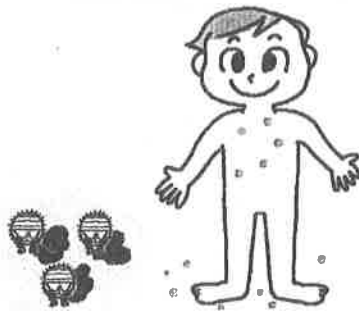
水痘の治療について

水痘（みずぼうそう）を治療する薬もあります。みずぼうそうにかかったら、早めに医療機関を受診しましょう。「アシクロビル」「バラシクロビル」という薬が有効です。なお、学校保健安全法ではすべての発疹がかさぶたになるまで出席停止となります。

水痘が治るまで

水痘にかかった場合、医師の診察のもと、すべての発疹がかさぶたになるまでは登校できないことになっています。以下では、水痘の発症から治療までを簡単に説明します。

- ① 「虫さされかな？」程度のぶつぶつができる。初めは痒くないが、徐々に痒くなり、数がどんどん増える。

ぶつぶつの様子①はじめは虫さされかな？という程度のちいさいぶつぶつ。
- ② 次の日になると、さらに痒みが増す。ここでかくと、かいたところからバイキンが入るおそれがある。

ぶつぶつの様子②大きくなって水ぶくれになる。熱が出ることもある。
- ③ 4～5日たつと、初めにできたぶつぶつはかさぶたになる。痒みはあるが、かさぶたをはがさないようにする。

ぶつぶつの様子③できたばかりのぶつぶつと、かさぶたのぶつぶつが両方。
- ④ 1週間すぎると、かさぶたが自然にとれてくる。これが治った証拠で、医師の診察後、登校が可能になる。

ぶつぶつの様子④ぶつぶつが治ってもウイルスは体内に生涯潜伏する。